

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <青森県 菓子>
年末は雪が少なく人出が多かった。クリスマスケーキは、ホールもののサイズが一回り小さくなったが、注文が増加した店もあった様子。卵の価格が下がったことが収益の増加となった。
2. <埼玉県 清酒>
県内日本酒出荷量は前年比110%と好調であった。イベントなどのリアル開催や冬期に向けての需要の拡大、PRが功を奏した感がある。12月～1月にかけ日本酒の需要期であり、更なる増加を期待したい。
3. <京都府 製茶>
インバウンドの流入が引き続き順調である。円安によりインバウンドの財布の紐が緩い傾向にあり、土産に高級品（特に抹茶）がよく売れていると聞いている。
4. <岡山県 米菓>
冷え込みもあってやっと需要期に入ったように感じる。人の動きが活発なのか駅空港は発注量も多め。量販店では、積極的な年末商材として取扱いもあり活況。
5. <徳島県 味噌>
前年同月比で味噌の生産量は102.8%、出荷量は105.7%であった。年末年始需要増の見込みに対応して生産量は増加している。出荷量も5カ月連続して伸びており、コロナ前のお荷量に近づいている。
6. <長崎県 冷凍水産食品加工>
前年同月比において売上高は減少、収益状況は好転。製品値上げの影響で販売数量が減り売上高は減少したが、輸入すり身原料の価格が下がったため、利益率は回復し経営的には昨年より良くなっている。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維>
12月の売上高は前年同月比で悪化。冬物衣料の販売不振により、稼働率が低下している。単価を下げて受注する工場も出てきた結果、上昇した加工賃が再び低下するという悪循環が起きている。
8. <東京都 織物>
年末商戦は盛り上がり欠け、ネクタイやストール生地製造の注文は横ばい。気温上昇の影響が大きく、売上の増加は鈍い。物価の上昇が続いているが、価格転嫁は難しく収益は減少し厳しい状況にある。
9. <富山県 絹人織織物>
化合織織物や絹織物ともに、売上は前月より減少している。前年同月比でも売上は減少しており、材料や資材の値上がり、労務費の上昇によって収益が悪化している。
10. <大阪府 帽子>
暖冬の為、冬物衣料品の動きが鈍かったが、ここ最近の寒さで少し動き出したものの今までのマイナスを取り戻せていない状況である。
11. <和歌山県 繊維>
暖冬もあり冬物重衣料の売れ行きが良くなかったようで、アパレル各社は苦戦を強いられているため、発注数が昨年に比べ減っている。少子化による市場縮小と全体的な営業界不調で衣料が売れていない。
12. <愛媛県 タオル>
観光関連など特定のタオル需要は高いが、ギフトを中心に小売関係は需要が減退している。タオル全般の動きが良くない中、今後は価格競争が懸念される。

木材・木製品製造業

13. <岩手県 一般製材>
新設住宅着工戸数は、前年同期と比較して約25%減と大幅に減少したが、製材品の動きはここにきて回復してきた。材料となる原木丸太は不足気味になってきており、価格が上昇傾向にある。
14. <福島県 製材>
高値となっていた原木価格は出材の増加に伴い落ち着いてきた。製材品の荷動きは一部で堅調な品目が見られるものの全般的には低調で価格も横ばいとなっている。
15. <栃木県 家具・建具>
繁忙期を前にした季節的要因か売上高を減少とする企業の割合が増加した。資金繰り悪化する企業の割合も増加しており、今後の不安材料となりつつある。零細木材加工業者の破綻があった。

16. <和歌山県 家具・装備品 >
受注先の工務店を中心として、原材料不足、原材料価格の高騰、原材料費積算の不透明感及び人員不足などに起因する工期の遅延及び未着工により、当業界は長期的に低迷状態が継続している。
17. <香川県 製材 >
昨年より新設着工数は減少しており、プレカット稼働率が50%に落ちている。リフォーム等修理依頼はあるが、依然として業界の悪化状況は続いている。
18. <福岡県 家具 >
巣ごもり消費の反動が大変大きい。家具業界は不況とも言える状況が長引き、明るい兆しが見えない。今後、異業種に向けた取り組みを強化していきたいと考える事業所も出てきている。

紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >
組合員の生産数量は前年より5～20%ダウン。例年の年末の様子と異なり、物が動かず厳しい状況であった。大手企業は前年より若干悪い程度で済んでおり、大手企業と我々中小企業との力の差を感じている。
20. <群馬県 紙製品 >
取引先業界に活発な動きがみられ始め、受注数量は増加傾向にあり収益は改善しつつある。しかし、物価高騰による買い控えの影響を不安視している。
21. <愛知県 紙器・段ボール >
12月に入り土産物、ギフト関係が伸びてきた。特にクリスマス関係の品はカレンダーが良かった。ただ、遠隔地への出荷については、運送会社の受付締切が例年より前倒しとなったため出荷量が落ちた。
22. <岐阜県 機械すき和紙 >
ユーザー各社からの受注数量は減少している。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、前月同様に売上高・在庫数量は減少したが、販売価格は上昇した。
23. <京都府 紙製容器 >
先月から一転して売上、収益状況、資金繰り等が減少に転じた。国内及びインバウンドの観光需要も12月に入り減少したことも影響している。また、お歳暮の需要減少にも歯止めがかからず年々減少している。
24. <高知県 手すき和紙 >
まだまだ収益が伸び悩んでおり、和紙業界全体が厳しい状況におかれていると感じられる。経済が安定していないので、消費者の購買意欲も湧かない状況である。

印刷

25. <岩手県 印刷・同関連 >
売上・収益ともにコロナ以前の8割程度にとどまっている。印刷物の需要の減少はコロナ以前から続いていたが、その速度が加速している。前年対比では増加傾向だが来年に向けての伸びが見通せない。
26. <秋田県 印刷 >
12月の業況は前年同月比で悪化。需要の低迷が長期に亘っており、経営が圧迫されている企業が増加した。値上げについては、徐々に得意先の理解も得られているが、収益を改善するまでには至っていない。
27. <栃木県 印刷 >
年末年始のチラシは低調。年賀状を廃止する会社、個人が増え12月としてのプラスの要因が減って前年並みが精一杯の状況。原材料値上がり分の価格転嫁は一定程度浸透している。
28. <神奈川県 製本 >
昨年よりイベント関係の仕事が増加した会社が多い。仕事量は少しずつ回復しているものの、製造コストの増加が大きく収益性は低下している。価格転嫁が急務である。
29. <静岡県 印刷・同関連 >
価格転嫁の効果が出ていたが、ここに来て買い控えが目立ち需要が停滞しているように感じる。原材料の値上げが継続しており、更なる価格転嫁が必要であるが、業界のまとまりが弱く値上げがしにくい状況。
30. <徳島県 印刷 >
資材や用紙の値上げによる価格転嫁は進んでいるものの、頁数の減少、ボリュームの減少、部数の減少、仕様や紙質変更等による予算調整で収益状況は悪化している。

化学・ゴム

31. <東京都 ゴム製品 >
出荷数量は前年同月より減少しているが、値上げをしているため売上はほぼ変わらない。ただし、原材料や電力費が高値で安定し、収益を圧迫している。
32. <愛知県 高圧ガス >
出荷量は堅調に推移しており、販売価格も安定してきたが、コスト上昇分を転嫁出来ていない組合員もあり、収益改善には道半ばの状況が続いている。輸送機器、工作機械向けは増加傾向にある。

33. <奈良県 プラスチック製品 >
人件費の高騰に加えて依然として受注量の低迷状態が続いているため、マイナス成長の状況である。全体的に回復傾向にあるという景況感を全く感じられない。
34. <大阪府 セロイドプラスチック製品 >
前年・前月比ともに20%ダウンと非常に低調な状況。稼働率も落ち、新たな案件受注も厳しく、納入価格アップが思うように認められない状況では、収益悪化しかない。
35. <島根県 プラスチック製品 >
受注状況については引き続き大幅に低迷している。年末の大手自動車メーカーの検査不正問題による影響がどの程度生じるかが不明であり、大きな懸念事項となっている。
36. <岡山県 ゴム >
全体として受注状況は引続き回復しているものの、原材料コスト、エネルギーコストの高止まりは収益を圧迫している。販売価格改定により収益は前年より改善しているが、引続き経費節減等に注力している。

窯業・土石製品製造業

37. <北海道 砕石 >
函館地域では、新幹線延伸工事に伴う砂・砂利の需要により、3年間程度は販売の見通しが立っている。
38. <山梨県 骨材・石工品等 >
前年同月と比べ売上げは10%増加したが、物価高騰の影響によって収益状況は変わらない。繁忙期に入り工事量は増加したが、地域によって差が大きい。
39. <岐阜県 陶磁器 >
中国への輸出は、中国国内の景気後退によりストップしている組合員や注文のキャンセルのある組合員がある。輸出は、中国への輸出が減少傾向にあるも、韓国、台湾等への輸出による売上が増加している。
40. <山口県 コンクリート製品 >
運送に関して2024年問題対応の話をする耳が多くなった。販売製品の運送費だけでなく原材料等全てにおける運送費UPも安易に予測でき、数社からの値上げ打診もきている。
41. <香川県 石材加工 >
12月単月のみならず、一年を通して過去に類をみない業績悪化だった。コロナ禍を経て、世の中の動きは戻ってきていると報道されるが、我々の業界には動きが感じられない。
42. <沖縄県 コンクリート製品 >
12月の売上は対前年並み、出荷量は対前年20%減となった。製品販売価格を上げたため売上高は維持しているが、出荷量の落ち込みは大きく特に市町村発注の公共工事の減少が目立っている印象。

鉄鋼・金属製造業

43. <岩手県 金属製品 >
工場稼働率・工場加工費については横ばい傾向だが、工場稼働率が低下している。見積物件数は引き続き低水準が続いており、先行きについては「やや悪化」、「悪化」と推測する事業所が増えている。
44. <宮城県 機械金属 >
景況感は停滞もしくは悪化傾向にある。原材料価格、燃料コスト高騰という不安要素はまだまだ残るものの、今後は原油価格下落によるコスト軽減など、期待できる要因を注視していきたい。
45. <茨城県 鉄鋼 >
受注量・売上高ともに前年から10~15%程度減少した。建設資材関連や一般機械部品等の受注が減少している。業界全般の景況は、9月以降悪化の傾向であり、受注量は不安定で予断を許さない状況である。
46. <栃木県 金属製品 >
鋼材関連の荷動きが悪く低迷した年末年始となった。自動車部品は動いているが年末の勢いとはならなかった。自動車向け金型関連は年始からの新規話題も乏しい状況。
47. <鳥取県 金属熱処理 >
一部の企業で受注回復が見られたとの報告もあるが、多くの企業の受注状況は依然として低迷したままであり、昨年末の大手自動車メーカーの不祥事の影響を受けて更に厳しいところもある。
48. <大分県 鋼構造物 >
市況は中小案件が少なく、見積りも減ってきている。ホテル業界や半導体関連の企業は回復傾向にあるので、関連する企業の今後の投資に期待をしたい。

一般機器製造業

49. <北海道 電気工作機械 >
年末の駆け込み需要もなく、秋以降は動きの悪い状況が続いている。資材、燃料の高騰は続いており、運送業界の2024年問題もあり、来年は一層厳しくなりそうである。

50. <秋田県 金属加工 >
12月は前年同月比で業況が悪化。受注動向については、組合員の大半が前年同月比で30%程度減少しており、今後も受注減少が見込まれることから、12月中旬から従業員の一時帰休を実施したところもある。
51. <山形県 その他の電気機械器具 >
引き続き、自動車関連向け部品製造については売上高が増加、販売価格も上昇してきている。半導体需要が伸び悩みを見せており、製造装置関連の受注・売上が減少。
52. <埼玉県 一般機械機器 >
受注は堅調に推移しているが、原材料高などを受けた価格転嫁が進んでいないため、賃上げ等の原紙の確保に向けた交渉までには至っていない。人手不足と設備投資が大きな今後の課題となっている。
53. <石川県 機械金属・機械器具 >
業界の動向は明らかに下方局面に入っており、2023年11月から継続して前年割れの状況が続くものと思われる。人手不足は継続しており、マンパワーをどのように維持するかが最大の経営課題となっている。
54. <福岡県 一般機械器具 >
政府の賃上げ目標と相まって、人材確保のために各社待遇面の改善が課題となっている。中小企業は人件費の改善は業績に影響する度合いが高く、材料費等の価格転嫁が十分できていることが重要である。

電気機器製造業

55. <福島県 電子部品 >
昨年より売上、価格、雇用の増加はあるものの、ここ数カ月横ばいが続き、生産を押し上げる材料が乏しい状況。直接影響はないが自動車メーカーの不正による生産工場のストップで影響の出る企業も多い。
56. <群馬県 電気機械器具 >
人の動きが活発化しインフラ需要が高まったことに加え、部品不足の解消によりインフラ関連は更なる伸びが期待できるも、職人の不足が懸念材料となる。
57. <山梨県 電気機械器具 >
前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲30%となった。半導体関連の受注量はほぼゼロであり、2024年の後半まで解消の見込みがないとの情報もある。
58. <愛知県 電気機器 >
売上減少に伴う操業低下・人員減少・在庫減少の流れは変わらず。反面在庫削減による資金繰りは好転。販売価格については順次見直し効果が出ている。
59. <京都府 電機機械器具 >
半導体、樹脂、鉄鋼等材料の深刻な調達難のなか、顧客において安全が見込まれ在庫調整のためロットあたりの数量が通常より多く発注されていたが、状況が若干改善傾向にあり発注量の減少が認められる。
60. <長崎県 電気機器 >
工事関連の受注が増加している反面、技術者不足について懸念がある。また、一部の電気部品の納期が長期化している事から、そういった中で利益確保をいかに行うか検討していきたい。

輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品 >
売上高は上昇傾向にあるが、収益面はやや縮小傾向にある。全体の生産高は増加しているが、組合員間ではばらつきがみられる。
62. <群馬県 輸送用機械器具 >
自動車業界は好転し、2次・3次下請企業にも波及が感じられ、コロナ流行前水準に戻りつつある。一方で、大手自動車メーカーの生産停止の影響を受ける企業もみられ、今後の動向が懸念される。
63. <静岡県 輸送用機械器具 >
四輪車の生産は全体としては回復し残業・休出での対応となっているが、受注部品により企業毎のバラツキは出ている。二輪車・マリンの生産は市況の影響もあり当初の計画を下回る状況になっている。
64. <愛知県 輸送機器 >
業況は、売上が前年同月比17%減。依然、低迷が続く。建設機械関連が好調なのと、主力の輸送関連事業が前年同月比98%まで戻ってきているのが明るい話題。
65. <三重県 輸送機器 >
受注減少により、操業の確保に苦勞している。2024年春闘では、全国的に大企業中心に賃上げの機運は高まっているが、業種にもよるが、地域中小企業では対応できる範囲は限られると予想される。
66. <兵庫県 輸送用機械器具 >
前年同月比32.6%の増収であった。売上高（通期）は、前年比で全体では10%の増収となった。業界の景気動向は、まだまだ不透明感はあるものの、直近5年間の売上高では一番良い結果となった。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
店頭売上は消費税増税前まで回復したが、Gotoトラベル・旅行支援のあった令和2年・令和4年の売上には及ばなかった。ネット通販は堅調であり、インバウンドは連日の来店となった。
68. <東京都 スポーツ用品 >
イベントなどによる需要が回復し、用品需要が喚起されてゴルフ、登山、キャンプ、釣りは引き続き伸び、フィットネスは堅調な推移。しかし、ゴルフ練習場はコロナ禍において伸びた分、大幅な縮小となった。
69. <福井県 眼鏡工業 >
業況に大きな変化はなく、受注量も堅調。新幹線開業の機会を捉え、本格的なブランド戦略展開に取り組むほか、生産性向上による産地のレベルアップを進める。
70. <奈良県 毛皮革 >
加工業については、自社オリジナル製品の製作を中心に行っているが、定番商品の追加発注も入っている。鹿革については、より良い品質の商品製造を目指し、適正価格で販売して利益を確保したい。
71. <高知県 装飾品・同関連品 >
12月度の取引額は前年同月比129%となり、コロナ禍前の水準に戻りつつある。
72. <福岡県 豊等生活雑貨品 >
コロナが5類に移行され、仕事受注量は、例年より少しずつ良くなりつつあるが、諸材料の諸物価、燃然料等の急高騰により、薄利となることを危惧している。

《非製造業》

卸売業

73. <群馬県 各種商品 >
天然ゴム・合成ゴムの値上げに伴う原材料価格及びその他経費の上昇により、販売価格を改定した。自動車生産台数は上昇しているものの、消費マインドが冷え込んでおり、売上は前年並みで推移した。
74. <石川県 一般機械器具 >
住宅市場は依然として低調ながらも非住宅市場は民間需要が立ち上がってきており、商品価格の高騰も加わり売上は前年を上回っている。収益も経費増を補い、前年を僅かながらに上回ってきた。
75. <奈良県 青果 >
前年に比べて相場の強弱が非常に激しく入荷量が大幅に減少した。しかし、単価は前年比118~122%であった。今回はコロナの影響もなく、客数・売上も前年以上を確保できた。
76. <大阪府 電気機器 >
業界全般に、増収増益推移を確保。利益率は低下するも、総じて好調裡に推移している。各社総じて順調な業績推移を確保出来ている。業界としての話題はケーブルの不足が大きな問題となっている。
77. <広島県 電設資材 >
高圧ケーブルや低圧ケーブルの受注ストップに加え、宅内配線ケーブルまでも品不足の状態となり、今後の竣工予定現場に影響が出ていることが業界の大きな問題。過去に例がない異常事態になっている状況。
78. <熊本県 各種商品 >
建設業の受注の見通しが立っており資材関連業種もこれに伴い数カ月の安定した売上が期待できそうである。食品卸売の売上は先月と比較すると多くなっているが、前年と比較すると数量は減少気味である。

小売業

79. <青森県 食料品 >
昨年と比較し、年末商戦はイベント企画等の活況も感じられるようになってきた。おせち料理や年越しそばの受注も増加し一安心ではあるが、原料在庫の品薄状況、入荷の遅れが気になっている。
80. <山形県 電気機械器具 >
秋頃から多くの人が集まる合展・個展でも従来通りの試食や実演などが行われ、コロナ禍以前の催事が復活。そのため省エネ家電製品でも高付加価値機を提案できたので収益にも繋がった。
81. <富山県 食肉 >
お客様の購買意欲は旺盛で、より上質な商品を求める傾向があり、高単価な状況である。価格転嫁が出来ている会社は収益改善に繋がっているようだが、この傾向が続くかは疑問が残る。
82. <徳島県 各種商品 >
店舗売上は一部の業種(飲食・婦人服)で前年昨対比を上回るものの、まだ大半の店舗が伸び悩んでいるようだ。組合運営も収益の落ち着く状況まではほど遠いようだ。
83. <宮崎県 石油販売 >
冬場の主力商品である灯油の販売が、暖冬により苦戦している。また、コロナ5類移行後の年末を迎え販売増が期待されたが、価格高騰の影響もあり需要は回復していない。
84. <鹿児島県 中古自動車 >
依然として、中古車業界は消費者の買い控えにより来店が鈍り厳しさは増している。メーカーの不正問題も発覚し、更に買い控えも出てきそうであり、今後が懸念される。年始の新春フェアに期待したい。

商店街

85. <千葉県 商店街 >
販売額は、前月比124%、前年同月比122%と好調であった。特に飲食業は好調。開業60周年を迎え各種イベントも規模並びに経費を拡大し取り組んでいる。
86. <新潟県 商店街 >
新型コロナウイルス感染症の5類移行後初めての年末で、飲食店は忘年会等宴会が昨年より多く好調だった。物販に関しては特に変わらず昼間の人出は増えていないように感じた。
87. <長野県 商店街 >
歳末を迎えたが商店街にはその空気感が漂っていない。かつては“歳末大売り出しセール”などのイベントも開催したが、店舗数の大幅減少や主な業種が飲食店となっている現状ではその開催も困難である。

88. <福井県 商店街 >
12月はクリスマスのガラガラ抽選会などイベントの開催が増えたため、大型店を中心に売上が昨年同月比10~20%程度増加。忘年会シーズンを迎えた飲食店では昨年より大きい団体が多かったように感じる。
89. <宮崎県 商店街 >
年末になり人の活動があわただしくなり各店舗それなりに忙しくしているようだった。売上は順調に伸びているなか、人手不足と仕入れの高騰は悩みの種で、せっかくの売上も利益を圧縮するばかりだ。
90. <鹿児島県 商店街 >
年末商戦で各店様々なイベントを行っているようであるが、客数は伸び悩んでいる。年始に向けての買い控え、もしくは、年末年始久々に旅行に行く予定の方々も今年が多いようである。

サービス業

91. <宮城県 湾岸旅客海運 >
好天の日が多かったことで、売上、旅客数は前月比、前年同月比ともに増加し、資金繰りも改善しており、組合員の所得も増加してきた。
92. <千葉県 建設揚重 >
働き方改革による、作業日数の減少や残業時間削減のためオペレーターの給料が減少。業界にとって、大きな問題になる。現行の業務を維持していくには、20%程度の料金引上げが必要である。
93. <三重県 旅館 >
久しぶりに2019年を超える実績を上げることができた。昨年と比べると宿泊客は110%程度であったが、日帰りのお客様(昼食、夕食、入浴のみ)が大幅に増加したことが収益の好転に貢献した。
94. <滋賀県 広告 >
年末年始の広告・ディスプレイの需要が旺盛だったため業界各社業況は好調。公共工事における見積もりの過当競争にも一定の歯止めがかかりつつあり、販売価格への転換も出来てきているようである。
95. <高知県 旅行 >
組合クーポン前年同月対比196%、全旅クーポン合算後の同月対比151%と売上は回復傾向。中央会補助金を活用した組合ホームページ開設に伴う更なる取引力向上・売上改善・組合員増加を期待している。
96. <大分県 旅行 >
旅行客が増えているのが手に取るように分かる。ホテル・旅館の宿泊代、エアー、バスなどの値上がりで旅行代金は高くなっているが、収益としては不変。事務処理が煩雑だった旅割が終了して安堵している。

建設業

97. <岩手県 土木工事 >
出荷数量は昨年対比で54%と減少した。公共工事は新規発注物件が少ないうえ、発注された物件の規模も小さい。令和6年度も出荷数量の見通しは薄く、非常に厳しい状況が続くものと思われる。
98. <福島県 建設 >
土木工事の工事件数が少なく、構造物製作やコンクリート二次製品を使用する工事が減少している。若干規模の大きい建築工事はあるが、地元業者の受注機会が少ない。
99. <埼玉県 塗装工事 >
原材料の高騰や円安等から資材等の値上がりが続いているが、概ね工事費用への転嫁が進みコロナ禍前の水準に戻りつつある。経営規模・形態にもよるが、業況が二極分化している傾向も散見される。
100. <東京都 重機工事 >
燃料価格について、燃料油価格激変緩和対策事業が終了する令和6年3月以降の動きを警戒している。仕事量は増えているものの、維持費や新車価格などのコストが上昇し、収益に結びついていない。
101. <静岡県 総合工事 >
12月に入っても来年着工予定の見積依頼は多くあるが、資材が値上がりするたびにお客様の予算との乖離が大きくなっている。リフォーム工事も採算的には厳しいが多く発注されている。
102. <富山県 鉄骨・鉄筋工事 >
大手鉄骨加工業者は、図面承認の遅れ、技術者の不足、働き方改革などによって加工能力の限界がきている。中小鉄骨加工業者も、工場稼働率に開きはあってもものの工場に空きがある業者は少ない。

運輸業

103. <宮城県 タクシー >
アプリでの配車依頼が増えており、忘年会帰り等繁華街での利用も去年よりは増加した。帰省客の利用も概ね好調であった。LPG価格は、ガソリン価格同様高値で推移している。
104. <茨城県 一般貨物自動車 >
主要顧客の発送物量は横這いであるが輸送運賃の値上げがあり、その分売上高は増加した。一方、人件費等の経費も上昇、燃料価格についても高値から更に値上がりしており、厳しい収益状況となっている。

105. <新潟県 一般乗用旅客自動車>
12月は忘年会時期であり年間で最大の需要期となっている。12月中旬以降お客様の注文が増加し、注文に応えられないケースや街角で長時間タクシー待ちが出るなどご迷惑をおかけするケースが生じた。
106. <長野県 道路旅客>
タクシー料金が9月25日から値上げされ、コロナ前対比で値上げ分の増加が見られた。今後の需要も徐々に戻ってくるのではないかと。需要の回復に伴い、供給側の人員確保が近々の重要な課題である。
107. <山口県 一般貨物自動車>
荷物運送量は年末にかけて増加している。自社車両では足りず庸車を手配せざるを得ない場合もあるが、庸車も不足している。原因は近年の乗務員不足と時期的な荷物量増加にある。
108. <佐賀県 貨物>
繁忙期であり、荷動きは活発であった。特にクリスマス前までは、九州向けの荷物があふれている状況でスポットの運賃も上昇した。軽油価格については、依然として高値の状況である。

その他の非製造業

109. <神奈川県 不動産>
資材高騰が続く新築、リフォームとも利益率に影響している。相変わらず賃貸におけるコロナ後の家賃滞納が減らず大変管理上困っている。
110. <奈良県 質屋>
ジュエリー市場はインバウンドの回復により国内小売りは好調であるが、高級時計は中国不動産バブルの崩壊により、特に香港向けのマーケットが鈍化し、国内相場も大幅な下落傾向が続いている。
111. <兵庫県 物品質貸>
当月売上高は前期並み若しくは若干下回る予想。年末にかけての消費行動の弱さを予想されたのか全体的に低調に終わった感がある。
112. <岡山県 信用組合>
どの業種も収益状況は横這いで推移しており、継続的なヒアリングを行い資金繰り支援をしている。来年度に向け販路拡大、人材支援等の本業支援を新たなツールを模索しながら拡大していきたい。
113. <広島県 不動産>
不動産市場について一般向けでは、材料費の高騰や人手不足で、戸建住宅、共同住宅の建築等が減少しているが、マンション販売については、新築が増加し、中古は依然として販売価格が高値で推移している。
114. <福岡県 貸金・クレジットカード等>
コロナ禍の融資の返済が進み、融資が増えてきているという声も聞こえてき始めている。円安、金相場、高級時計、バッグ相場の高騰、ダイヤ相場下落など、今後の相場動向に目が離せない状況である。